

第2回 航空機運航のDX推進に向けた検討会 議事概要(案)

日時： 令和3年10月29日(金)9:30 ~ 11:55 Web会議

<1.開会 交通管制部長挨拶>

前回の検討会での検討会設置の意義などに関する活発な議論に感謝。前回皆様から頂いたご意見から情報を共有することに対する各方面から期待の高さというのを改めて認識。今回は、各空港関係者の皆様からデジタル関係の取組、データ活用の現状と今後への期待などをお伺いした上で、前回同様に活発な議論をお願いしたい。

<2.議事>

① 前回会議のフォローアップ

資料1を事務局から説明

- ガバナンス、大変重要だと思っている。データの内容に応じ、適切な利用ルールを作成していくことが重要。

② デジタル情報を活用した空港運営効率化の取組

資料3を事務局から、資料4を成田国際空港委員から、資料5を関西エアポート委員から、資料6を中部国際空港委員から、資料7を南紀白浜空港委員から説明。

- 各空港のファシリティの使用状況や地上機器の利用状況など、今必ずしもデータになっていないようなものを、例えばIoTとかGPSなどを使ってデータ化する取組は構想の中に入っているのか。今後データ化して、よりデータをリッチにして、共通の仕組みにフィードバックされる予定はあるのか。
- 地上業務機材等のCommon化や、DXとの連携に結びつけることはできないか。現状、各航空会社やグループ会社で保持する機材が大半で、空港側として実態がつかめていない。実態把握の必要性を認識して、現在リソースの把握を調査しており、前向きに検討している。
- ランドサイド、エアサイドの両方がスコープに含まれている。エアサイドで今進めているのはGSE関係で、シミュレーションによれば機材をすべて共有化することで現状より大きく削減できる。ランドサイド、ビルの中ではPFM(パッセンジャーのフロー・マネジメント)を入れている。それを活用して保安検査のレーンの最適化等を進めており、今後はカウンター周りや、クリーンエリアを含めて、パッセンジャー・フロー全体の把握を目指している。
- 人や物の動きを見える化していきたい考えがある。空港会社はお客様情報を持ち得ていないため、お客様の行動分析からスタッフの業務効率に繋げたいところ。また、人の動き、物の動きの代表例がGSE車両。各社の車両をどのように効率的に運用していくか、事故をいかに減らしていくか、環境に対する影響をいかに減らしていくかを目指したい。

- ランドサイドの効率化、GSE 車両の例えば自動運転化についてもやりたいと考える。本空港発でエアラインと一緒に何か新しいことをやりたい。
- 手続き面などのデジタル化による負担軽減は、我々航空会社側にとって重要な課題だと認識。こうした手続きが今後 Web 申請できるようになれば、航空会社側もワークロードの軽減が期待されるので推進してほしい。
- 空港管理者としては、到着便については、出発便と違いターミナルビル内でお客様の行動分析等からの情報が手に入らない。2 年前の台風の時もそうだったが、飛行機に何人乗っているか等の情報が集められるかが、今課題になっている。
- システムデザインが重要。協調領域と競争領域があり、本来の協調領域がバラバラになるのはもったいない。ただ、競争領域は最後まで残ると思われるため、協調するところと競争するところをどこで切り分けるのか検討して欲しい。
- 作る立場としてはインプット、つまり各社がどういうデータを持っているのかを、しっかり洗い出していきたい。その上で我々が汎用的に作って最終的にどういうアウトプットを作りたいか、そこをしっかりと設計したいので、皆様と「見える化」していきたい。
- 具体的に皆さんが何をされてどんな形で動かれているのかを把握しないと設計ができないので、是非、お互いが一緒に考えて、皆様方のご協力が必須だと思う。
- 空港会社側において目の前の差し迫った問題に対して、自前でシステムを大分作り上げて、先のロードマップまで示されている。SWIM のシステムと本検討会で進める航空局のデータをオープンにしていくことをどのように調整しながら、一元的に情報を管理して、協調的な意思決定をやっていくのか。
- デジタル化の前に業務を共通化するか、Common 化するか、協調と競争の仕分けをするところとかも重要。例えば、物流では共同輸送などで協調し、競争は製品内容で勝負しようとする話と似ている。専用化した方がきっとやりやすい面もあるけれども、それを上回る Common 化のメリットを共有しつつ、デジタル化で効率性を上げる必要がある。単にデジタル化すればいいというものではないという議論も必要。
- 誰がデータをとって SWIM に上げて共有するのか。大きな空港は問題が複雑なので色々な事を個別にやりたい。小さい空港だと個々に作るのではなく共通的なものを航空局が音頭をとって作るという様な発想になるかもしれない。となると、遅延などの航空ネットワーク全体で見ないと分析・解析・評価できないようなデータは共通フォーマットで全空港でちゃんと持ちながら、個別の空港で持っている情報共有基盤でも対処できる仕組みがあれば、良いのではないか。また、SWIM で管理する範囲がどこまでか。SWIM を介さない情報共有も考えられるため、誰がデータをとって SWIM に上げて共有するのか、その境界がどうなるのか。全ての空港でシェアした方がいい情報を航空ネットワークへの影響度合いという面から先に洗い出してみるのはいかがでしょうか。
- ステークホルダの皆様方が多く、思った以上に難しそうと感じた。例えば、地銀は集約がかかって、個々のシステムに地銀の方々がまとまりつつある。そこでは勘定系は競争領域だが、決済で見ると共通のプラットフォームができていく形だ。アーキテクチャ、全体の設計は結構難しいので、皆様方のお知恵もいただきたい。
- 色々ある交通系 IC カードで改札、物販、購入というサービスは共通化していて、IC カードでビジネスモデルを各事業者の方は持っている。協調と競争のそれぞれの領域の中で

展開されているサービスの方に目を向けるような思想で進めていければ良いと思っている。

- 共通の議論する仕組みがなくて、コスト面、本来ある程度共通化できるところが空港ごとに別々になってしまう。関係者との協議も個々に必要になるので、リソースを活用する面でも無駄があるため、プラットフォームみたいな共通ベースからある程度空港ごとに構築するとコスト面でも良いものができるのではないかと。仕組みづくりができてくると各空港も効率的に色んなDXを進めていくことができる。手続きも空港ごとにやり始めるところがあり、空港を利用する際の手続きの共通基盤の様なものも考えると、今後の日本の航空ビジネスの競争力になっていくのではないかと。
- 全体として高コストにならないような形でベンダーを含め全員が Win-Win になるようなあたりが考えられる。
- 例えば、API で投げればデータが来るようなインターフェースとハードルを下げるというところをしっかりと、技術的な展開というのをお願いしたい。
- 最初のサービスデザインが、こういった取組では大事。必要なデータ、スピード感を出すためには、実際に使っていただき意見が出やすくなると思うので、実証実験にご協力いただける空港があれば、声掛けいただきたい。
- オープンでフランクな方々によって先進的な取り組みをやられている空港もあるので、始めから広く声を掛けて連携した方がいいと思った。
- 意欲のある地方空港をまず盛り上げて、そこから全ての空港に展開していくようなやり方もあるのではないかと。

③ 今後の進め方について

今後の進め方について(資料2)

質疑は特になし。

<3.閉会>

本日は、空港会社の皆様方からプレゼンテーション頂き、これらをきっかけに色々なご意見も多くの方々から頂いた。次回は運航者の皆様方からのプレゼンテーションとなる。仕組みの構築にあたっては、やりたいこと、したいこと、すべきこと、を皆様から意見を吸い上げていくことが大事だ。

以上